



～ 夢ひとすじに～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 3 号
平成 26 年 5 月 30 日 (金) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

転んだって何度でも立ち上げられる

校長 ^{やま} ^{した} ^{せい} ^じ
山 下 誠 二

5月17日の体育祭には、多くの地域の皆様、保護者の皆様に来校していただき、素晴らしい天候のもと、盛大に開催できました。また、小・中合同種目（みやはら春のパン祭り）では、小学校6年生が多数参加してくれ、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

さて、子どもたちのみならず大人も何かにおいて失敗することは多々あります。私自身も成功体験より当然のことながら失敗体験の方が多くあり、その失敗が多く詰まっているため、多少？お腹が出ています・・・。

親が子供に教えなければならないのは「転ばない方法」ではなく、むしろ人間は転んだって何度だって立ち上げられるということなんじゃないか？

漫画『ハチミツとクローバー』より



失敗しない方法を教えることも大事ですが、それ以上に失敗したときに前を向ける強さを育てていくことの方が大事だと考えます。ヨチヨチ歩きができるようになったばかりの子どもは、本当によく転びます。でも、何度も何度も転んでは起き上がってを繰り返しているうちに起き上がるのが上手になってきます。そしてだんだん転ぶ回数も減ってきます。専門書によると転んで起き上がってを繰り返すことで必要な筋力もついてくるため、上手に歩けるようにもなっていくそうです。転ぶことは、成長するために、必要不可欠なことだと思います。失敗はとても価値のあるもの。転ぶことに限らず、子どもが何か失敗した時や問題にぶつかった時に逃げずに向き合うこと。それを教えることが大事なのではないかと思います。親や教師として転ぶ前につい手をかしたくなったり、子どもが転んで泣いている姿を見たら抱き上げて助けてあげたくなるのは、当然のことかもしれませんが、その行為は、子どもの可能性を奪うことにもつながるかもしれません。子どもの力を信じて見守ることも大事。そして子

どもが自分の力で起き上がることができたら、たくさん褒めて抱きしめてあげること、それが大事だと思います。そういった小さな成功体験の積み重ねが、「失敗を恐れない心」につながり、失敗を恐れない心を育てれば、子どもは成長し続ける人間になれるのではないのでしょうか。失敗は悪いことではありません。失敗した後、どうするかが大事です。「失敗は成功のもと」この言葉の意味を子どもが経験から理解できるように導いていくこと。それも親や教師の大切な役目なのではないのでしょうか。あとは、「成功したからすごい」ではないと思います。そこに至るまでの過程が大事。成功したとか、失敗したとか、1番になったとかなれなかったとか、勝ったとか負けたとか、目に見える結果だけで子どもを評価するのではなく、そこに至るまでの努力だとか、失敗を恐れずに立ち向かった勇気だとか、失敗との向き合い方だとか、そういう目には見えないところを認めて、褒めてあげられるような親や教師でありたいと思います。

いよいよ学校総合体育大会が始まります。3年生は最後の大会です。これまでの失敗を糧に最後には自分に勝てる大会、そんな大会になるよう強く願っています。

6月28日の土曜公開日の午後、「保健・安全フェスタ」を開催いたします。「安全・安心宮原中」を合言葉に、自転車シュミレーター・応急手当基礎講座・ヘルシーお菓子づくり等の講座を行います。小学生、中学生そして保護者の参加も可能です。多くの方の参加をお待ちしています。（詳細は、後日配布されます）